

科目名		建築史			
担当教員		熊谷貴子		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	1年	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築の様式とその変遷、建築物の特徴、代表的な建築物、用語、日本人建築家を学ぶ ・教科書の記載事項をマークした後、まとめ板書で様式の特徴・建築物の概要・用語を再確認します ・学習範囲の評価テストと、代表的建築物の映像レポートの提出で学習知識を評価します 			
学習目標 (到達目標)		2級建築士試験の学科に対応できる知識を習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		<input type="checkbox"/> 図説 建築の歴史 (学芸出版社) <input type="checkbox"/> iPadでの補足資料 <input type="checkbox"/> 映像資料 <input checked="" type="checkbox"/> 教科書をチェックするマーカーペン(黄色) <input checked="" type="checkbox"/> 板書を記入するノート			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	縄文・弥生・古代の建築			日本建築の原型と神社建築を学ぶ	
2	飛鳥・奈良時代の建築			仏教建築の伝来とその特徴を学ぶ	
3	平安時代の建築			平安京と寝殿造りの特徴を学ぶ	
4	鎌倉時代の建築			仏教建築の展開とその特徴を学ぶ	
5	戦国時代の建築			城郭建築と茶室の特徴を学ぶ	
6	江戸時代の建築 評価テスト①			書院造りの完成と数寄屋の特徴を学ぶ 学習範囲の知識習得確認	
7	明治時代の建築			西洋建築の輸入と日本人建築家を学ぶ	
8	大正時代の建築			震災復興とモダニズムの広がりを学ぶ	
9	昭和・戦後の建築			戦前の建築と戦後復興・高度経済成長期の建築を学ぶ	
10	日本と世界の建築 評価テスト②			世界の建築潮流と日本建築を学ぶ 学習範囲の知識習得を確認	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
テスト①	テスト②	映像レポート	取組姿勢	日本の代表的建築物とその特徴を学び、これからの新しい建築創造の基礎知識としましょう	
30 %	30 %	30 %	10 %		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社にて設計補助、職業訓練校にてCAD講師、家業の建築大工にて設計営業担当			